

令和6年度（2024年度）第1回熊本市観光振興推進協議会

■開催年月日：令和6年（2024年）6月27日（木）

■開催時間：14時30分～16時30分

■開催場所：桜の馬場 城彩苑 多目的交流室

■委員

（敬称略・五十音順）

所属	氏名	備考
九州産業交通ホールディングス株式会社 代表取締役社長	岩間 雄二	副会長
株式会社ON-do	岡村 政志	
熊本経済同友会 幹事	尾道 早織	
Webサイト「けんさむの熊本紹介」 運営	けんさむ	
東海大学 文理融合学部 地域社会学科 客員教授	小林 寛子	会長
熊本県旅連女将の会 熊本支部 肥後椿会 会長	西上 真理子	
熊本国際空港株式会社 営業推進部 課長	羽田 勇	オンライン
九州旅客鉄道株式会社 執行役員 熊本支社長	三浦 基路	オンライン
株式会社アドアストラ 代表取締役	モーガン ジェイソン デイビット	
一般社団法人 観光ボランティアガイド くまもとよかところ案内人の会	本山 素子	

■事務局：熊本市

【会議資料】

- 次第
- 座席表
- 熊本市観光振興推進協議会委員名簿
- 資料1 観光動向等を踏まえた戦略の推進について
- 資料2 本市の観光動向について
- 資料3 戦略に基づく本市の取組状況等について
- 参考資料 令和6年版観光白書抜粋（観光庁）

【議事】

1. 開会

- 令和6年度第1回熊本市観光振興推進協議会を開催いたします。
本協議会は、本市の観光振興に関する戦略の策定及び進行管理等に必要な事項を審議するために設置した、本市の附属機関です。昨年度の戦略策定におきましては、委員の皆さまに大変貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。
今年度は、戦略に基づく観光施策の進行管理等について、様々な視点からご審議いただければと思います。(事務局)

2. 委員紹介・挨拶（省略）

3. 会長・副会長選任

- 会長・副会長の選任を行います。「熊本市観光振興推進協議会の組織及び運営に関する要綱第5条」の規定に基づき、委員の互選により選任を行います。(事務局)
- 昨年度の戦略策定時に会長、副会長をお務めになった小林委員、岩間委員に、引き続きお願いしてはいかがでしょうか。(委員)
- (他に推薦等無しのため、小林委員、岩間委員へ意向確認。両委員了承。)
委員の皆さまにご賛同いただきましたので、会長は小林委員に、副会長は岩間委員にお願いいたします。
この後の進行につきましては、熊本市観光振興推進協議会の組織及び運営に関する要綱第5条により、小林会長にお願いしたいと思います。(事務局)

4. 議事

■ 事務局説明

- 資料1、2、3について説明

■ 意見交換

- 天守閣復旧後、今後しばらく公開エリアが広がらないことが課題とされている中、主な取組として、宇土櫓の特別公開と実績としての入場者数が示されている。屋根部分を間近に見られるということで、非常に貴重な機会であったと思う。ゴールデンウィーク中には監物櫓も特別公開されたかと思うが、そちらを合わせた入場者数と、熊本城有料エリアへの入場者数に占める割合はどの程度か知りたい。(委員)
- 監物櫓入場者数は1日平均250名で、ほぼ国内客であった。また、期間中の熊本城有料エリア入場者数は1日約9,000～12,000人であり、約5、6割の方が特別公開に來られている。(事務局)
(補足情報：宇土櫓は有料エリア、監物櫓は無料エリア。)

- ツアーなどで来られている方は、時間の制約もあり入れなかったかと思うが、広報や情報発信の方法次第でより集客が図れたかもしれない。これまで、屋根を同じ高さで間近に見るということはできなかったのも、個人的にも大変見たいと感じる。日本の中でも、これだけの規模で工事を行っているお城は中々ないと思うので、公開エリアが広がらないと捉えるのではなく、そこをいかに見せるか、その仕掛け、売り込み方、情報発信ができれば、エリアは広がらずとも、今のありのままの熊本城、復活に向けて動いている熊本城を、日本のサグラダファミリアのような形で、上手に見せられると思う。宇土櫓や監物櫓などのような、今公開できるところや、特別にお見せできるところを積極的、効果的に発信していくと良いのではないかな。

(委員)

- 今しか見られないという所にどのように価値をおくか、ということで、熊本城が復興していく長い年月の間の、切り取った今現在の瞬間の見せ方は大変重要。ただ見るだけでは中々分からない所を、ガイドさんなどがいることでより理解が深まることもあると思う。(会長)
- ガイドのお客様にも、宇土櫓の公開は大変好評で、鯨などを近くで見ることができ、大変喜んでいただけた。今後も定期的に公開され、併せて他の取り組みも予定されているようなので、またご案内していきたい。(委員)
- 戦略の基本方針に基づいて、それぞれの関係者が取り組みを進めていくと思うが、その本当の目的についてコンセンサスを得ることが重要。人を呼ぶという目的だけではなく、その後の熊本の未来につながっているということに気づけるようしていただきたい。集客して、来られたお客様に「熊本は良かった」と思ってもらえ、リピーターになっていただく、その先にある目的は、市民も熊本の良さを認識するという事ではないかな。

今後、多くの方が関わって個別の事業が進む中で、本来の目的と異なる判断が出たり、目的の意識がないままに事業が進んだりする可能性もある。戦略を推進するための個別事業が熊本の未来にプラスになるよう、丁寧な手法で進めていくことと、本来の目的を発信することを同時並行で進めていただきたい。(委員)

- 個別事業が単体で動いているだけということにならないよう、常に目的を意識しながら進めることが大事かなと思う。(会長)
- 美しい景観である熊本城に付随して、そこで美味しいものを食べられるという観点から、城彩苑をより活用できればと思う。美しい施設で、日本の昔ながらの雰囲気もあり大変良い場所だが、コンテンツに変化がないので、例えばポップアップの店舗を随時持ってきたり、一般のカフェなどで行っている様々な工夫を応用したりするなど、もっと新しい取り組みがあっても良いと思う。

旅の醍醐味は食だと思うので、熊本に来た方に、他市に負けないような美味しいものがあつたと思って帰ってもらい、その情報が広がってまた違う方が来るという流れを作りたい。

江津湖も好きで、江津湖とお団子を掛け合せてはどうか、水前寺エリアで美味しくお茶を飲める場所があると良いのでは等、アイディアは色々あるので、誰に相談すれば良いか、キーマンとなる方が分かればと思う。(委員)

- 本協議会の中では是非お話いただき、令和7年度以降の取組に向けて、食についてのノウハウをインプットしていただけたらと思う。(会長)

- 城彩苑は、熊本城を上回る入場者数となっており、窮屈にも感じるのでは、簡単な話ではないと思うが、周囲に土地を活用して倍の広さにしても良いと思う。

また、熊本城については、復旧工事中で申し訳ないというスタンスを感じるが、復旧工事は30年近くかかるので、サグラダファミリアのように、工事そのものを見ていただき、また数年後に、変わっている様子を見に来たいと思っていただきたい。記録するためにも、YouTubeなどで、熊本城の工事に関わる多くの職人さんに、仕事に対する思いや現在の作業などインタビューしてはどうか。今しか撮れない映像であり、時期を逃さないようにした方が良い。また、観光だけではなく小中学校などの教材としても活用できると思う。

水前寺エリアは、熊本城と比較してイベントなどが実施しやすく、様々な文化発信の中心となっている。ジェーンズ邸も電車通りから見える場所にあり、水前寺成趣園などと連携したイベントの実施等に適している。(委員)

- 熊本城を2回目、3回目に訪れる方々に満足していただき、新しい見所を見出していただくために、誰が主体となりどのような取組を行っていくかがとても気になっている。まだまだ台湾、香港、韓国から多くのお客様が来られており、多くの方が熊本市、熊本城に行かれているということを聞いているので、その辺りで何か知恵を出し合い、協力できるかと思っている。(委員)

- 国際線の、台湾や韓国、香港路線と、福岡空港の両方から外国人旅行者が来られている一方、関東から熊本に来られる外国人旅行者は1割に満たない印象。関東にははるかに多い外国人旅行者が来られているので、そこから呼び込めるような情報ツールや魅力の発信があれば、より旅行者を増やせると思う。

熊本の町は元気で、多くの外国人の方が行き来されている一方で、市電やバスなどの交通機関の中で困られていることも多いと感じる。簡単なワードでも英語が通じないというケースを多々目にするので、言語対応が非常に重要なポイントになると思う。人を介するかツールを活用するか、情報発信するかQRコードでコンテンツを読み取ってもらうか等、色々な方向性があると思う。

先日、姉達 came ので久々に熊本城でご案内していただいたが、知っているようで知らない所が沢山あり、復興の状況などもご説明いただき大変感動した。これだけ頑張っているということを伝える生身の声はとても重要であり、全て英訳するのは難しいと思うが、同時通訳などのツールを利用して片言でも伝えていくことができれば、満足度がかなり上がるのではないかと感じる。また、復興という所では、台湾は寄附をしてくださった国で、親日家も大変多いので、熊本を愛していただけの

ンテンツは沢山作れるかと思う。(委員)

- 必要な情報を、タイムリーにどこで出すかということは大変重要かと思う。関東や関西に来て、九州までは来ていないお客様のうち、1割に来てもらえるだけでも熊本は十分と言える。情報発信の方法について今後考えなければならないという点と、言語対応については、人による対応もあれば機械やITを活用した形もあり、また、滞在期間中、例えば交通機関を利用している間などに色々な情報が入ってくることによって新たな観光地に訪れる可能性もあると思う。(会長)

- 言語の問題は非常に感じている所で、当社の運転士にはポケットークを持ってもらっているが、一方で、安全とどちらが大事なのかという課題がある。少し怖くて操作したくないという運転士もあり、その気持ちも理解できる。また、自費でSIMを含め全て用意しなければならないということになると、事業者によって対応が変わってくるかと思う。今後、多言語化への対応として変えていくことが必要であれば、もう少し全体感として見ていく必要があるかと思う。また、二次交通とはいえ、観光利用と市民利用が混在する点に難しさを感じている。

熊本城については、修学旅行も含め、教育目的の旅行者に見ていただける素材になると思っている。コロナ禍で、沖縄や東京、大阪の修学旅行先がほぼ九州に変わり、おそらく最も恩恵を受けたのは熊本ではないかと思う。それが、今年以降元に戻っていく中で、教育旅行に適した観光素材は、水前寺成趣園の伝統や熊本城の復興だと思う。ここが中々修学旅行と結びつかなかったり、知育素材として結びついていなかったりするの、熊本市としての大きな損失ではないかと思う。特に、水前寺成趣園については、交通結節点に名前が出てこず、水前寺公園前、水前寺駅などとなっており、バス停にも名前が出てこないの、誤解を与えるのではないかな。そう言った所も、インフラとして整えていくことで、観光地が潤っていくのではないかなと思う。企業としても取り組むものの、企業努力で補えない部分も多々でてくる。修学旅行は、関東などの方にとっては初めての九州旅行となる可能性が高いと思うので、行先の一つに熊本が含まれていくと、より観光地としての魅力や熊本城の魅力を発信できるのではないかなと思う。(副会長)

- 市電電停やバス停の名前に、降りたい場所の名前があると、やはりそこで降りる気持ちになると思う。少なくとも、例えば「水前寺公園前、水前寺成趣園にいらっしゃる方はこちらでお降りください。」と一言アナウンスするなど、ちょっとしたことで変わるのであればやってみた方が良く思う。(会長)
- 私は4月から熊本に住んでおり、熊本の方と話す「熊本には熊本城しかないんですよ。」と自虐的に言われることが多いが、受け入れ地区として「熊本城は良い所だ。」というマインドをしっかりと根付かせた方が良くないかなと感じている。また、復興までに大変長い時間がかかるということは逆にチャンスだと思っているので、この時にはこれが見られる、この時にはこれが見られる、この時期にはここまで復興するので今まで見られなかったこういうものが見られますよ、ということ

で、リピートされる素材をしっかりアピールしていくことが必要かと思う。私共も色々な媒体を持っているので、そのような部分でもご協力できるかと感じている。また、お客様が、熊本からすぐに違う所へ行ってしまうという現状も感じているので、食であったり、夜や朝にしか見られないものであったり、宿泊することで新たな魅力を付加できるということで、熊本の魅力再発見、熊本ならではの所をアピールできれば、熊本城プラスαで熊本の新たな魅力を伝えられるのではないかと思います。

また、熊本城と熊本駅の間に、新町古町という素晴らしい財産があり、その3つがきれいに連携していくと、熊本のまち歩きとしての魅力がさらに高まるのではないかと。（委員）

- 復興のプロセスをきちんと発信することで、リピーターを確保するという視点は大変重要かと思う。また、まち歩きのプログラムなど、歩くスピードと視点でなければ見られないものを見て、さらに食の体験や、そこでしか見られない手工芸品を見る等の体験ができるコンテンツは大変良いと思う。熊本城を支える周辺城下町の文化についても発信することで、回遊型のお客様に楽しんでもいただける熊本というものを目指せるかと思う。（会長）
- まち歩きのプログラムについては、熊本国際観光コンベンション協会のホームページで「まち歩きモデルコース」として出しており、くまもとよかとこ案内人の会でご案内している。皆さまの目にもっと触れるよう、会としても力を入れていきたい。（委員）
- 熊本の大きな交通結節点である空港、熊本駅、桜町バスターミナルでは、それぞれがばらばらに情報を出しているが、例えば、桜町バスターミナルで飛行機の運行状況や新幹線の時刻表などの情報を出せないかと思う。いずれかの交通機関にトラブルが起きた時に代替手段を探す場合など、旅行者の方がスムーズに動けるようにするには、そういった情報を、各交通結節点で、ある程度出した方が良いのではないかとと思うが、かなり費用がかかる見込みとなっている。お客様にとっては、早いタイミングで、中心市街地にいる間に欠航や遅延などの情報を得られた方が、代替手段も複数考えることができると思うので、交通結節点での情報共有は必要ではないかと思う。それが、お客様への情報提供、優しい環境づくりになると思うので、是非全体として取り組めると非常にありがたい。（副会長）
- 台風などの災害が多い地域でもあり、重要な取組だと思う。事務局の方でも、交通関係の方を集めて話し合いをされる等の提案をされても良いのではないかとと思う。（会長）
- 現在、全国交通系ICカード決済の廃止が話題になっており、俯瞰で見た時に中々継続が難しいかとは思っている。最近、同じく観光都市である鹿児島県では当初から全国交通系ICカード決済の利用ができないということを知り、実際の利便性や課題などの情報を熊本でも活かせるのではないかと考えた。（委員）

- 最初から使えない所と、使えるものが使えなくなる、便利が不便になるという所が両者の大きな違いかと思う。最終的に使えなくなった場合、その不便さをいかに解消するかということ、交通事業者や市は一緒に考えなければならない。JRを利用する方が乗り換える際に別のカードを出さなければならない、ということが一番の課題になると思う。シームレスではなくなるということは、観光とも相反する。
(副会長)
- 市民はやはり不便になったと感じると思うので、どのように変わるか、何が問題か、ということが分かるようにしていただけると納得できるかと思う。
交通関連で別件になるが、一日乗車券などを、海外の方が紙ベース以外で利用できれば利便性が上がるのではないかと感じている。(会長)
- 海外の方が購入できるサイト、ツールを導入しているのが当社のみであり、中々浸透していない現状がある。(委員)
- 当社では、ジャパンレールパスやモバイルパスを販売しており、少しずつシェアは増えつつある。(委員)
- モバイルパスについても、先程の交通結節点における情報共有の件に加えて、シームレスな使い方ができる様な話し合いをされても良いかと思う。(会長)
- 市電の一日乗車券については、JRを利用された方が熊本駅の観光案内所で購入されることが多く、観光案内を受けたい方が待たれている場面もあると聞いているので、先程の取組を周知浸透させるような取組が重要だと思う。(事務局)
- MaaSがもう少し浸透して、皆さまに使っていただけると良いかもしれない。
また、受入体制の充実に関連して少し伺いたいのが、例えばヴィーガンなど、食べられない食材がある方などについて、熊本の飲食店が外国人旅行者への食のサービスを考える際に、最低限やっておいた方が良い取組や、外国人旅行者に安心していただけるような取組等があればお聞きしたい。(会長)
- 最近、台湾の方と交流する機会があるが、来日する方が見ているポータルサイトがあり、そちらに載っている、熊本の台湾グルメのお店などに多くのお客様が訪れている。海外にいる時点、旅マエで見てもらうツールの活用や、情報発信などがあるとより良いかと思う。(委員)
- 今後、そのような食習慣の違う方が来られた時に、食べるものがないということにならないよう、どの程度準備をするべきかを考えていく必要があるかもしれない。
基本方針3のMICE推進の所で、開催件数が前年度比115%となっているが、増加の主要因をお聞きしたい。(会長)
- 開催件数が前年比115%となっているものの、コロナ前までには戻りきれていない状況であり、コロナ禍からの回復が一つの要因と思われる。また、熊本城ホール開業などのハード的な整備や、TSMCをはじめとする半導体企業の集積により工学系の学会が増えていること、医療系で大型の会議が開催されていることも挙げられる。
ターゲットについては、熊本大学医学部がある関係で医療系の学会をメインターゲット

ットとしていたが、新たに理工系を設定して力を入れていきたいと考えている。

(事務局)

- 今、学会も費用がかかったり先生方がご多忙であったり等で難しい状況があり、学会の誘致も大変なので、誘致の仕方やターゲットの対象を違う形にするということは重要で、夜に楽しめることなど、熊本のエンターテインメント的な所をもう少し前に出すなど、切り口を変えていかないと、強みにはならない。熊本ではなく他の地域でもできるということであれば、そちら（例えば釜山やシンガポールなど）に行ってしまう。阿蘇の火山や熊本ならではの食文化、歴史的な背景や熊本城など、それらを総合して上手に活用するためには、本当に戦略的なプロモーションが必要。また、戦略的なプロモーションに関連して少し伺いたい、西のゴールデンルート事業はどのような効果が想定されるか。(会長)
 - 欧米豪からの旅行者の約8割は東京から大阪までの区間で旅行されており、それを西の方に呼び込もうということで、九州・西日本で賛同する自治体が連携して取組を進めようとしている所。熊本の認知獲得のためには、単独では厳しいということで、このような取組に積極的に参加していこうと考えている。アジアを含むインバウンドについては、九州の新幹線沿線都市である北九州、福岡、熊本、鹿児島などの四都市でも連携するなど、都市間連携による枠組みが大きくなってきている。(事務局)
 - 西日本が、欧米豪をターゲットとすることに少し疑問を感じている。地理的には韓国や台湾などアジアの方が近いので、アジア富裕層を呼び込むような仕組みを考えた方が、観光を通じた良好な関係を長期的に築けるのではないかと。欧米豪は地理的に遠く、旅行者に占める割合も低い、九州は韓国や台湾、近年はタイやベトナムなどの東南アジアからも多くの旅行者が訪れており、その強みを生かして、数十年後まで継続できる良い観光地となっていきたい。また、九州内での周遊を促進するためには、例えば熊本城～阿蘇間など、移動円滑化の取組も必要になると思う。(委員)
- また、熊本城や水前寺地区周辺の、利活用できていない土地や建物（NHK跡地など）を、レトロなカフェなど、良い形に活用できればと思うが、所有者との調整等が課題になるかと思う。(委員)
- 経営的な視点からの意見になるが、私共は、まず自信のある商品を生み出し、職員教育などにより運営体制を整備し、関わる職員までしっかりと自信を持てた時点で初めて広告して売り出す、という方法を取ってきた。当事者である市民の気持ちが追い付かず、自分事として捉えないような事業を多く実施するよりも、まずは、商品としての観光資源に注力した後に、誘客の取組を行った方が良いのではないかと。熊本の魅力である、美味しい食や他県から羨ましいといわれるような文化などをいかに活用していくかということについて補助、テコ入れし、エリアごとにモデルケースを提示するような取組が必要であり、それを分かりやすく表現できるのが水前

寺ではないかと思う。ジェーンズ邸でのイベントやクリスマスマーケット、水前寺成趣園まつりなど、水前寺での動きは、熊本で何かが動き出した象徴として、皆さまにとっても分かりやすいのではないかと思う。事業を実施するにあたっては、目的を整理し、関係者もしっかりと理解、納得できるような内容となるようにしていく必要があり、それが方針4にもあるような担い手づくりにつながると思う。最も大事な点はここであり、継承への市民意識の醸成や、観光資源の保全など、熊本が100年後も熊本であり続けるための事業であるという意識の下、目的を明確化する必要がある。(委員)

- 熊本を良くしたい、自分の分野や強みを活かして何かしたい、という気風は色々な所にあると思う。その人たちが活動しやすくするための窓口や情報、場の提供など、そういったことを考えていただきたいと感じた。例えば、本協議会のメンバーの中でも、ある分野のある問題（例えば熊本城の復興プロセスのPRなど）について数人でワーキンググループを作り、具体的な案を出し合い、可能であればそちらに助成金や補助金をつけていただき、その予算の範囲内でできることを探ったり、その内容をフィードバックしたりすると良いのではないか。戦略の内容を実践するにあたっての、市の担当課や窓口は、外部からは分からないため、実際にどのような取組がされているかが市民に伝わらないと思う。市民がきちんと巻き込まれて、戦略を動かすために一役も二役も買っているのだという意識が醸成されれば、より動いてもらえると思う。行政だけではなく、市民レベルに活動の裾野を広げるための場づくり、機会の提供を考えていただければと思う。(会長)
- 多くの市民が、色々なアイデアや改善案を持っているので、それらを実現にむけて動かしていく必要がある。観光や文化というものを分かりやすく表現し、経済につなげられるのが本協議会の場ということであれば、これらの意見がより効果を発揮し、見えやすい形となり、横串が刺されていき、県と市、地方と市などの連携もより図られ、課題解決につながっていくのではないかと思う。(委員)
- そのような機会があれば、市民が望んでいること、最初に実施してもらいたいことは何なのかといった、優先順位も見えてくると思うので、枠組みを考えていただきたい。本協議会の委員には、そのような所で一肌も二肌も脱いで構わないと思われる方が多くいらっしゃると思うので、委員のスキルやネットワークなどを上手に活用していただくような進め方も一つの方法かと思う。(会長)
- 最後に、今回の議論についてまとめると、基本方針1では、熊本城の魅力について、プロセスを重視しながら上手な見せ方、情報発信をする、熊本城が素晴らしいのは確かなので、地元のマインドをより根付かせていく、城彩苑や城下町を含めた、点ではなく線、面で魅力向上を図る等の取組が必要というご意見をいただいた。基本方針2では、交通結節点における交通情報の共有を行うことで、旅行者の利便性向上が図れるのではとのご意見をいただいた。そちらについて検討する際には、ICカードやキャッシュレスなど、共有できる内容については併せてご検討いただ

ると良いのではと思う。基本方針3では、熊本城や食文化などを総合的に熊本の強みとして打ち出す必要がある、地理的に近いアジアなどの富裕層をターゲットに進めていく考え方もある等のご意見をいただいた。ニーズには色々なものが考えられ、国だけではなく、年齢層、気軽に旅行を楽しみたい方や高付加価値な旅行を楽しみたい方など、様々なマーケットがある。熊本には、それらに該当する商品を作るための観光素材が多く存在していると思う。ただ、まだ点在している状態で、線や面になっていないので、どうつなげていくかは今後の課題ではないかと思う。基本方針4では、具体的に動く際は、行政だけで抱え込まず、民の力を上手に活用しながら一緒に進めていければ良いのではないかということをお話させていただいた。

(会長)

5. 閉会

- 次回の協議会は8月下旬頃の開催を予定しております。今回ご審議いただきました内容を踏まえた、令和7年度以降の取組案をお示しし、内容をご審議いただく予定です。その後、令和7年2月下旬から3月上旬に開催予定の第3回協議会におきまして、令和7年度の取組と予算額のご報告を予定しております。これをもちまして、令和6年度第1回協議会を閉会いたします。皆さま、本日はどうもありがとうございました。(事務局)